



Q2

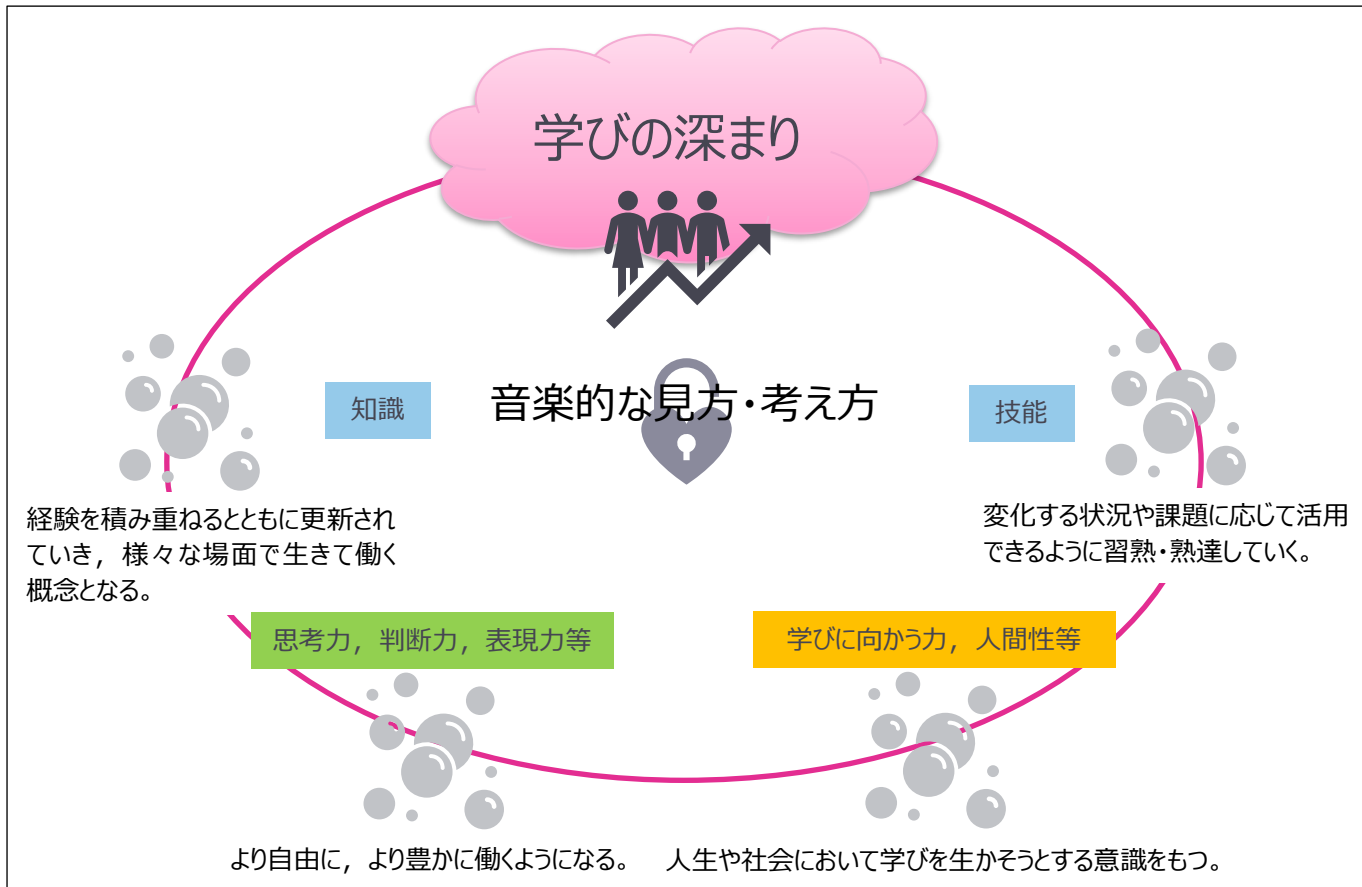
深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせるとは、どのようなことですか。



A 「音楽的な見方・考え方」は、「主体的・対話的で深い学び」における「深い学び」の視点からの授業改善と密接に関わります。題材など内容や時間のまとまりを見通して、学びの深まりをつくりだすための「鍵」が「音楽的な見方・考え方」となります。各教科等の特質に応じた、物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い学びにつなげることが重要です。

そのためには、「音楽的な見方・考え方」を働かせることができるような指導計画の作成と、「音楽的な見方・考え方」を踏まえた教材研究を行うことがポイントとなります。

♪ 本研究による音楽科における「学びの深まり」のイメージ図



音楽科における「深い学び」とは、学びが「浅いか深いか」ということではなく、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせることによって、音楽科という教科の本質に迫る学びをしていることと考えることができます。ということは、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせることができている学習活動が展開されているのであれば、「深い学び」は実現せず、結果として、音楽科で目指す資質・能力の育成は不十分となることが予想されます。



【中等教育資料（平成30年5月、6月号）を基に作成】

参考

- ⇒ Q1：「音楽的な見方・考え方」とは、どのようなものですか。
- ⇒ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 (mext.go.jp)